

令和3年（2021年）4月1日

『地図でみる山形 ～市街地に刻まれた出羽の歴史～』を発刊しました

【本件のポイント】

- 山形大学が教員の研究活動を促進するために設けている「研究成果公開経費」の補助を受けて、令和3年3月15日、『地図でみる山形 ～市街地に刻まれた出羽の歴史～』が、海青社から発刊されました。
- 山形市、米沢市、鶴岡市、酒田市など、山形県を代表する都市が単体で取り上げられることはありますが、山形県の全市町村に対する地理的な特徴を整理するような書籍は今回が初めてです。

【概要】

山形大学学術研究院の山田浩久教授（地理学／人文社会科学部主担当）らが制作した書籍『地図でみる山形 ～市街地に刻まれた出羽の歴史～』が、令和3年3月15日、海青社から発刊されました。この書籍は、山形大学が教員の研究活動を促進するために設けている「研究成果公開経費」の補助を受けて刊行したもので、執筆者は、地誌や観光の授業を担当する山田浩久教授のほか、同学部主担当で地域政策論を担当する本多広樹講師及びフィディア総合研究所で山形の地域調査を手がけ、現在は熊本学園大学に籍を置く山口泰史准教授、東北公益文科大学の松山薫准教授（歴史地理学）で、いずれも山形を中心にフィールドワークを実践する活動的な研究者です。地図に興味のある一般読者はもとより、自然環境や歴史の中で地域や地域同士の関係を理解しようとする研究者や学生にも役に立つ内容で、教育教材としての活用も期待できます。



【書籍について】

山形県は、平成の大合併によって現在35の市町村から構成されていますが、本書では、大合併前の旧44市町村を対象にして、それぞれの市街地（主要集落）に見出されるその土地の風土を読者に伝えることを目的にしています。本書は、基本的に右頁に2万5千分の1の原寸地形図を置き、見開き2頁で山形県の市町村の市街地を紹介しています。旧44市町村にこだわったのは、山形県の魅力は中小の町村部にあると考えているからです。本書を執筆するにあたり、1年間はフィールドワークに費やしました。山形県全域にわたるフィールドワークを行ったことで、修験や三山参詣、覇権争い、紅花交易、企業誘致、観光といった各時代の趨勢のなかで、街道、舟運、鉄道、高速道路等を介して県内の土地が深く結びつき、それが時代の変遷に伴って変化してきたことが今日の山形の地域構造に結びついているという歴史の流れ「脈絡」を確認できました。本書を通して、市街地に刻まれた歴史の痕跡を地図上で確認してもらえればと思います。

冊子版（ISBN9784860993870）とダウンロード版（ISBN9784860997212）があります。ダウンロード版は、カラー表示のPDFファイルとなっています。ユーザー登録をすれば右記QRコードのサイトから定価¥1,800（税抜き）の10%offで購入可能です。



【今後の展望】

今回の書籍は、地図で山形県内の市町村を整理することを目的に企画しましたが、今後は、各市町村の統計から地域の類似点・相違点を整理する書籍を企画してみたいと思っています。

お問い合わせ

学術研究院 教授 山田 浩久（地理学）

TEL: 023-628-4246 mail: hyamada@human.kj.yamagata-u.ac.jp